

昭和46年度農協滑川病院 内科受診患者の統計的観察

(特に町地区と農村地区の比較調査について)

農協滑川病院内科 一 柳 兵 蔵

緒 言

昭和46年度 1年間に於ける内科受診患者の受診状況並びに患者実人数の統計的調査を行なうと共に、各疾患別の分類及び発生頻度の調査を行ない滑川市及びその周辺地区住民の疾患に於ける実態を分析し、地区住民の健康の保持に寄与せんとした。

受 診 状 況

受診患者の地域範囲は滑川市を中心として水橋地区、魚津市、黒部市、上市町、入善町宇奈月町朝日町、富山市の一部、その他に涉って居るが表(1)の如く滑川市1,546名、水橋地区243名を始めとし、総実人数2,159名であった。性別では男963名、女1,196名で、やや女が多かった。

滑川市内科受診患者実人員数及び受診率

地 区	男	女	計	住民数	受診率	地 区	男	女	計	住民数	受診率
町地区	418	525	943	16,257	5.8	四ッ屋新			0	64	
農村地区						杉 本	7	8	15	288	5.21
浜加積						法花寺	1	1	2	110	1.81
坪川	4	10	14	266	5.26	中 新	3	5	8	138	5.79
曲 洶	2	2	4	193	2.07	中 塚	2	2	4	95	4.21
荒 俣	11	23	34	576	5.90	稲 泉	1	5	6	158	3.79
大島新	7	7	14	94	14.89	宮ノ窪	1	5	6	159	3.77
浜四ッ屋	6	8	14	146	9.58	七 口	4	6	10	275	3.63
中の島	10	6	16	231	6.92	横 道	5	6	11	191	5.75
北 野	15	21	36	736	4.89	大 榎	4	3	7	199	3.51
北野新	1	2	3			計	41	53	94	2,217	4.2
浜加積		1	1								
計	56	80	136	2,242	6.0	東加積					
						大崎野	2	6	8	224	3.57
北加積						下大浦	7	10	17	298	5.70
野 町	4	4	8	225	3.55	上大浦	4	4	8	250	3.20
榜 山	6	5	11	94	11.70	道 寺	1	2	3	57	5.26
金 屋				105		野 尻		1	1	36	2.77
二 塚	3	3	6	116	5.17	大 日	1		1	31	3.22

地 区	男	女	計	住民数	受診率	地 区	男	女	計	住民数	受診率
室 山				46		計	29	35	64	2,226	2.8
千 鳥	1	2	3	38	7.89						
中 野	1	1	2	86	2.32	西 加 積					
下 野				111		上 梅 沢	6	10	16	325	4.92
東 福 寺	6	5	11	205	5.36	下 梅 沢	4	15	19	343	5.53
開	8	7	15	316	4.74	上 島	6	7	13	257	5.05
改 養 寺		3	3	95	3.15	下 島	9	4	13		
東 金 屋	13	3	16	103	15.53	沖 田 新	5	2	7	222	3.15
森 野 新	2		2	104	1.92	有 金	5	3	8	246	3.25
裳 輪	4		4	139	2.87	江 尻	1	2	3	113	2.65
計	50	44	94	2,139	4.3	魚 躬	3		3	115	2.60
						西 加 積	1		1		
早月加積						計	40	43	83	1,621	5.1
四 ッ 屋	2	3	5	316	1.58						
笠 木	1	5	6	205	2.92	山 加 積					
吉 浦	5	3	8	123	6.50	本 江	6	10	16	326	4.90
三 ケ		1	1	96	1.04	小 森	4	9	13	155	8.38
大 掛	1	1	2	196	1.02	田 林	5	6	11	131	8.39
大 窪				157		東福寺野	3	11	14	151	9.27
大 島	1	4	5	202	2.47	計	18	36	54	763	7.0
中 村	3	8	11	319	3.44						
栗 山	4	7	11	405	2.71	農村合計	262	341	603	13,970	4.3
追 分	11	18	29	743	3.90						
計	28	50	78	2,762	2.8	総 合 計	680	866	1,546	30,227	5.1
中 加 積											
堀 江	8	10	18	695	2.58						
常 光 寺	1		1	112	0.89						
安 田	7	2	9	292	3.08						
柴	3	7	10	182	5.49						
高 柳	2	6	8	335	2.38						
小 林	3	4	7	164	4.26						
赤 浜	3	4	7	257	2.72						
寺 町	2	2	4	189	2.11						

地 区	男	女	計	地 区	男	女	計	地 区	男	女	計
水橋町地区	67	107	174	魚津市町地区	50	74	124	黒部市町地区	5	8	13
水橋農村地区				〃 農村地区				〃 農村地区			
田 町	1	3	4	黒 谷	1		1	牧 野	1	1	2
中 村	1	3	4	住 吉	2	2	4	舌 山	1	1	2
狐 塚		1	1	鹿 熊		1	1	若 栗	2	1	3
新 保		1	1	大海寺野	2	3	5	石 田 岡		1	1
上砂子坂	2	1	3	金 山 谷	1	1	2	出 島	1		1
下砂子坂	2	1	3	江 口	2	2	4	北 新		1	1
石 政	3		3	小 川 寺	1		1	榎 木		1	1
新稲荷町		1	1	六 郎 丸	4	2	6	堀 高		1	1
畠 等		4	4	持 光 寺	1		1	荻 生	3		3
椋 木	2	2	4	北 中	1		1	六 天	1		1
池 田 館	2	4	6	慶 野		1	1	山 田 新	1		1
五 郎 丸	1	3	4	仏 又	1		1	石 田 新		1	1
鏡 田	1		1	青 島		2	2	寺 町	1		1
市 江	3	1	4	弥 源 寺		1	1	荒 俣		2	2
柳 寺	2		2	東 城	2	1	3	中 新	1		1
小出上屋	3	1	4	仏 田	2		2	堀 部	1		1
恋 塚	1		1	晴海ヶ丘	1		1	計	18	18	36
平 榎	1		1	石 垣 新		1	1				
肘 崎		1	1	岡 仏 田	1		1	上市町地区	6	5	11
市 江	1		1	鉢 木	1		1	上市農村地区			
清水堂	1		1	市 出		1	1	郷 柿 沢	2	1	3
佐 の 竹	1		1	北 鬼 江		2	2	東 沢 上	1	1	2
伊勢屋	1	2	3	升 方	1		1	中 沢 上		1	1
曲 淵	1	1	2	天神野新		1	1	黒 川	1	1	2
上 的 場		1	1	川 緑	3		3	下 経 田		4	4
小 池		1	1	片 貝	1		1	女 川		1	1
堅 田	2	1	3	吉 島	1	1	2	広 野 新		1	1
沖	1		1	鉢		1	1	中 小 泉	1	1	2
今 町		1	1	有 山		1	1	野 開 発	1		1
花 の 井		1	1	木 下 新		1	1	飯 坂 新	1		1
石 割	1		1	三 ヶ	2	2	4	大 永 田		2	2
計	101	142	243	計	81	101	182	久 金 新		1	1

地 区	男	女	計	地 区	男	女	計	地 区	男	女	計
湯の上子	1		1	道 市		1	1	宇奈月町地区	2	4	6
正 印		1	1	高 島	1	1	2	〃 農村地区	4	2	6
石 仏		2	2	目 川		1	1	計	6	6	12
竹 鼻	1	2	3	計	9	8	17				
青 出 新	1		1					富山市町地区	14	9	23
計	16	24	40	朝日町地区		1	1	(水橋を除く)			
				朝日農村地区				富山市 農村地区	10	3	13
入善町地区		3	3	横 尾	1		1	計	24	12	36
入善農村地区				三 枚 橋		1	1				
東 狐	1	1	2	宮 崎	1		1	そ の 他			
笹 原	1		1	境	1	1	2	町 地区	9	8	17
蛇 沢	1		1	細 野	1		1	農 村 地区	12	3	15
中 沢	1	1	2	山 崎	2	5	7	計	21	11	32
愛 場	1		1	殿 町	1		1				
墓 の 木	1		1	計	7	8	15	総 計	963	1,196	2,159
吉 原	1		1								
新 屋	1		1								

受診患者地域別実人数 表(1)

地区 地名	町 地区		農 村 地区		計
	男 人	女 人	男 人	女 人	
滑 川 市	418	525	262	341	1,546
水 橋 地区	67	107	34	35	243
魚 津 市	50	74	31	27	182
黒 部 市	5	8	13	10	36
上 市 町	6	5	10	19	40
入 善 町		3	9	5	17
朝 日 町		1	7	7	15
宇 奈 月 町	2	4	4	2	12
富山市一部 (水橋除く)	14	9	10	3	36
そ の 他	9	8	12	3	32
計	571	744	392	452	2,159名
	1,315 名		844 名		

◎ 町地区と農村地区受診実人数の比較

町地区総実人数1315名で男571名、女744名でやや女の方が多いのと比べ、農村地区総実人数 844名で男392名、女452名と、やはり女の受診数が多かった。即ち町地区は農村地区より受診実人数が471名多いが、人口密度より 当然の事であった。

◎ 滑川市地域の受診状況及び受診率

滑川市町地区住民総数16,257名(昭和46年11月30日現在調査)中、受診患者943名で男418名、女525名で受診率は5.8%であった。

農村地区住民総数13,970名中、受診患者 男262名、女341名で受診率は4.3%で町地区が少々高率であった。

農村地区の各字別では、東加積東金屋の受診率が最高で15.5%、次いで浜加積大島新14.9%、北加積枳山11.7%、山加積東福寺野9.2%、小森、田林の順であった。最低率は 中加積常光寺 0.89%

早月加積大掛1.02%、三ヶ1.04%であった。

受診率の高低は、即座に該地区住民の疾患発生頻度の高低を示すものとは即断は出来ない。寧ろ該地区住民の農協病院に対する依頼度も示すものと思われる。

特に交通不便な東福寺野、栃山の高率はこの例に属するものと思われる。

各農協別受診率 表(2)

農協名	受診率%
山加積	7.0
浜加積	6.0
滑川	5.8
西加積	5.1
東加積	4.3
北加積	4.2
中加積	2.8
早月加積	2.8

表(2)の如く山加積、浜加積の受診率高く中加積、早月加積が低率を示しているが、之が即ち利用度を示しているものとは思えない。むしろ遠隔地区程、病院に対する依頼度が高く、又一方では病院近傍の地区が、時間的に便宜である理由でこれに次ぐ高受診率を示しているのが実情であろう。病院の利用度の実態は各地区の実人数がそれを示しているものと思う。

各疾患別に依る統計的観察

1. 各疾患系の発生頻度 表(3)

疾患	症例数	百分率 %
呼吸器系	1,157	27.4
循環器系	695	16.4
消化器系	1,226	29.0
寄生虫	17	0.4
神経系	397	9.3
泌尿器系	142	3.3
血液系	80	1.8
新陳代謝系	111	2.6
内分泌系	32	0.7
伝染病系	21	0.4
皮膚系	69	1.6
中毒	12	0.2
淋巴系	12	0.2
運動器系	192	4.5
その他	64	1.5
計	4,227	

備考 1名の患者で2種又は3種の疾患を有する場合に2症例又は3症例として算定した。

最も発生頻度の高いものは、消化器系の1,226例で、総症例数に対する発生頻度率は、29%であった。次いで呼吸器系 1,157例で 27.4%、循環器系695例で16.4%が主たるものであり、この三疾患系は合計 72.8%を占めて居る。これに次ぎ神経系397例の9.3%であった。

呼 吸 器 疾 患

病 名	男		女		計	病 名	男		女		計
	町地区	農村地区	町地区	農村地区			町地区	農村地区	町地区	農村地区	
急性鼻炎、急性鼻咽炎、上気道炎(感冒)	189	156	324	190	859	肺結核	33	22	20	16	91
鼻出血	1	2	1	1	5	肺門淋巴腺腫脹				1	1
扁桃腺炎(アンギーナ)	1	4	2	3	10	肺癌	4	1			5
急性気管支炎	29	15	23	12	79	肺サルコイドーゾス			2		2
慢性気管支炎	6		2	1	9	肺嚢腫		1			1
気管支拡張症	2	2	1		5	肋膜炎	2	4	4	1	11
気管支喘息	18	5	8	3	34	肋膜肥厚及癒着	4	4	1		9
急性肺炎	5	6	6	2	19	膿胸	1	1			2
気管支肺炎			2	3	5	特発性気胸	1				1
非定型肺炎	3		1	1	5	声帯麻痺	1				1
肺化膿症	2		1		3	計	302	223	398	234	1,157

2. 呼吸器系疾患

I 発生頻度から見て、感冒、急性気管支炎、肺結核、肺炎、肋膜炎、喘息が主なるものであった。

II 気管支喘息

この疾患の発生率は男女共に、町地区に著明な高率を示している。町地区男18例で町地区男実人員総数571名に対する発生頻度率は3.1%で、農村地区5例農村地区男実人員総数392名に対する発生頻度率1.5%に比較して、約2倍に相当し、有意の差を示した。

同様に女では町地区8例で、町地区女実人員744名に対する発生頻度率は1%、農村地区3例で、農村地区女実人員452名に対する発生頻度率は0.66%で、男女共に町地区は気管支喘息の発生率が高率を示した。

町地区に於ける、気管支喘息の発生率の高い原因として、生活環境の空気の汚染の問題が、一因として考えられる。

即ち近來の経済発展の一環として、町地区周辺の工場地帯増設拡大は、空気の汚染度を急速に高めているものと考えられる。

III 肺癌

肺癌は町地区男4名、発生率0.7%、農村地区男1名で、発生率0.25%で明らかに、町地区に於ける

発生率の高いことを示している。

興味ある事としては、男計5名の発生に比し女性に於て、1名も見られなかったことである。

この事実は第一に町地区に於て、工場、自動車の急速な増加に依り、煤煙やガソリンの排気で、空気汚染が強度の高まりを示している事、第二に女性に有意に少ない事は喫煙者が、男に比して少ない事との関連性を示唆しているものと思える。

患者発地区は滑川町地区3名、水橋町地区1名、魚津農村地区1名であった。

IV 肺結核

肺結核は、最近減少の傾向にあるとは言いがた、尚町地区53名、農村地区38名で合計91名を認め、結核対策の未だゆるがせに、しえない現況が痛感される。

男女の発生率には、大差が認められないが最近の傾向として、高齢者が多く、特に重症結核である場合が多い。老人特有の因習性にもよるのであろうが、定期健診や集団健診に遺漏している場合が想像されるので注意すべき点と思う。

91名の大部分は治療を要する者が多く、その中には空洞形成や排菌陽性のものも少なくない。抗結核剤に耐性を示すものが多かった。今後重要な事は潜在性結核患者の発見が、住民保健の上に肝要な問題と思われる。

循環器疾患

病名	男		女		計	病名	男		女		計
	町地区	農村地区	町地区	農村地区			町地区	農村地区	町地区	農村地区	
上室性期外収縮	2	2	1	1	6	脚ブロック	5	6	4	4	19
心室性期外収縮	10	5	2	10	27	アダムスストローモス症候群		1			1
発作性頻拍症	2	1	3		6	心肥大	7	8	11	7	33
洞性頻脈	3	1	1	2	7	滴状心		1	1	1	3
洞性除脈			1		1	心不全	3	5	5	3	16
洞性不整脈		2			2	心臓喘息	1	1			2
呼吸性不整脈		1			1	冠不全	15	8	27	17	67
不整脈※	5	3	1	2	11	高血圧	72	44	89	47	252
W. P. W症候群				1	1	低血圧	4	3	9	7	23
心房細(粗)動	15	10	8	2	35	心弁膜症	2	5	3	7	17
洞房及房室ブロック		2	2	1	5	心内膜炎		1		1	2

病名	男		女		計
	町地区	農村地区	町地区	農村地区	
狭心症	7	1	4	1	13
心筋硬塞	14	5	5		24
心筋障害	6	5	25	9	45
動脈硬化	5	6	19	6	36
大動脈梅毒		1			1
血栓性静脈炎	1			1	2
心房中隔欠損			1		1
心臓神経症 (神経循環性無力症)	5	2	9	5	21
肺性心	1		2		3
特発性浮腫	1		7	3	11
下肢静脈瘤			1		1
計	186	130	241	138	695

3. 循環器疾患

I 不整脈

別表循環器疾患統計に記載の如く、名種の不整脈を認めたが、症例数は102例で、その中不整脈と記載ある欄は、脈の不整を訴えて来診するも、心電図にて捕捉しえず確信できなかったもので、恐らく大部分は一過性の期外収縮と想像される。

II 心房細(粗)動、房室完全ブロック

心房細(粗)動は、不整脈中最も症例数多く、35例に認め、心不全を合併し、救急医療を要するもの少なくなく、基礎疾患として、高血圧、冠硬化性心疾患を有するものが大部分で、且つ老令者に多かった。

脳卒中、心筋硬塞、冠不全に合併しある症例では、病状が重篤であった。

若年者では僧帽弁狭窄症に合併し来たりしものが一例あった。町地区23例、農村地区12例で町地区にやや高率に認められた。

房室完全ブロックで一例アダムス、ストークス症候群を来したものがあったが、医療により好転し、家業に従事している。

III 虚血性心疾患

I 心筋硬塞

年齢及び性別に依る頻度数 (表4)

年齢	性別		計
	男	女	
30歳代	1		1
40歳代	2		2
50歳代	6	1	7
60歳代	7	2	9
70歳代	3	2	5
計	19	5	24

1) 心臓疾患で最も致命率の高い疾患である。

46年度心筋硬塞にて当院にて死亡者数3名にして、女2例、男1例であり、その中1例は当院に到着と同時に死亡したものであった。

町地区 男14例発生率 2.4%

農村地区男5例発生率 1.27%

町地区 女5例発生率 0.6%

農村地区女なし

即ち町地区男が最も高率を示した。

2) 年齢及び性別による発生頻度

60歳代が最も多く9例、次いで50歳代7例、70歳代5例であった。

性別からみると、男では60歳代、50歳代に最も高い頻度で発生し、女では男より少し遅れて60歳代、70歳代に多いのがみられる。

生活のストレスが男では女より早く発生する要因の一つと考えられる。

発生場所は滑川市17例、水橋3例、魚津市3例入善1例であった。

滑川市以外の発生数はその地区の利用度と関連して補正しなければならない。実数はもっと多数と思う。

ロ 狭心症

定型的自覚症と心電図にST.Tの変化を示したものを、真性狭心症としたもので、大部分労作性狭心症の臨床像を示したが、中間型のものも認められた。

町地区男7例 発生率1.2%

農村地区男1例発生率0.2%

町地区女4例 発生率0.5%

農村地区女1例発生率0.2%

何れも町地区に男女共に高率で、特に男に著明

であった。

町地区男で漁業に従事する者に比較的多く認められた。

おそらく寒冷な海上に於ける過激な労働と今一つ飲酒が誘因として考えられる所である。

ハ 冠不全

心電図上にて S.T.T の変化の認められるもの

町地区 男15例 発生率2.6%

農村地区男8例 発生率2.0%

町地区 女27例 発生率3.6%

農村地区女17例 発生率3.7%

最も高発生率を示したのは、農村地区女 3.7%で、次いで町地区女3.6%である。男は町、農村共に女より低率であった。原因として、冠硬化、貧血、過重労働が考えられるが、最近農村主婦の兼業農家に於ける過重労働は既に指摘されている所で、それに関連する農村中年婦女に近頃貧血が多い事等が要因として考えられる。

尚町地区女にも殆んど略同率の高発生率を認められるのは、最近の食生活の変遷、即ち、脂肪豊富食の嗜好に変化して来ている事と冠硬化や中年婦女の肥満が関連性をもっているのではないかと考えられる。

Ⅳ 心筋障害

心肥大型で、心電図に S.T.T の変化の認めら

れるものは、機能的にも心筋障害と考えられる。基礎疾患として、心筋炎、冠不全(冠硬化、貧血) 内分泌疾患、高血圧、リウマチ、又女では子宮筋腫が関連する場合もある。

町地区 男6例 発生率1.0%

農村地区男5例 発生率1.2%

町地区女25例 発生率3.3%

農村地区女9例 発生率1.9%

町地区女 3.3%が最も高率を示したが、高血圧心肥大、冠不全で高率を示しある事から考えて、これらとの関連性が特に考慮される。又内分泌疾患、婦人科疾患との関連も一因とされる。

V 高血圧

町地区 男72例 発生率12.6%

農村地区男44例 発生率11.2%

町地区 女89例 発生率11.9%

農村地区女47例 発生率10.4%

町地区、農村地区共に、男女を通じて発生率には大差はなかった。併し循環器疾患として最も頻度の高いものであった。

殊に当内科の患者は比較的高令者の多い事も一因と思われる。

動脈硬化症の症例が比較的少ないのは、これを基礎疾患とした、脳卒中(脳溢血、脳軟化)、心筋硬塞、狭心症、高血圧、冠不全等を主病名として記載しているためである。

消 化 器 疾 患

病 名	男		女		計	病 名	男		女		計
	町地区	農村地区	町地区	農村地区			町地区	農村地区	町地区	農村地区	
口 角 炎			3	3	6	食 道 癌				1	1
口 内 炎	2	2	7	3	14	食 道 癌 瘻	1				1
アフタ性口内炎	4		20	3	27	食 道 神 經 症			1		1
口 唇 炎	1			2	3	急 性 胃 炎	9	1	7	3	20
歯 齦 炎	5	2	8	2	17	胃 炎	65	72	115	62	314
舌 炎	2	2	3	1	8	胃下垂(内臓下垂)	14	9	52	32	107
舌 潰 瘍				1	1	胃 ア ト ニ ー	1	2	11	4	18
耳 下 腺 炎		2			2	胃 拡 張	2		1	1	4
食 道 憩 室			3		3	神 經 性 胃 炎	1	1	1		3
食 道 拡 張 症			1		1	瀑 状 胃	2		3		5

病名	男		女		計	病名	男		女		計
	町地区	農村地区	町地区	農村地区			町地区	農村地区	町地区	農村地区	
胃潰瘍	21	16	18	5	60	腹膜炎	1	1			2
幽門狭窄		2	1		3	便秘	1	1	8	10	20
胃ポリープ	2	1	4	3	10	急性肝炎	6	1	3	3	13
胃癌	4	3	1	1	9	血清肝炎	2	1	1		4
切除胃後遺症	5	5	6	1	17	細胆管性肝炎			1	1	2
十二指腸炎	8	2	6	1	17	慢性肝炎	21	6	11	8	46
胃十二指腸炎	14	12	10	9	45	肝障害	22	10	15	12	59
十二指腸憩室	2	1	6	4	13	閉塞性黄疸	2			2	4
十二指腸潰瘍	18	8	12	7	45	肝硬変		2		2	4
急性胃腸炎	15	11	30	16	72	肝癌		2	1		3
急性腸炎	18	13	24	9	64	肝性昏睡	2				2
慢性腸炎	2	3	2	3	10	肝腫		2	3	4	9
潰瘍性大腸炎				1	1	胆嚢炎	13	3	8	8	32
終末廻腸炎			1		1	胆管炎	1			1	2
過敏性大腸	7	2	3	2	14	胆石症	3		4	2	9
腸疝痛	1		1	1	3	胆道ガスキネーゼ	1		3		4
S字結腸過長症		1	6	1	8	胆嚢下垂	2		1		3
虫垂炎	1	1	4	7	13	急性膵炎	7		5		12
移動性盲腸	2	1	1	2	6	慢性膵炎	2		2		4
腸管癒着	3	1	5	7	16	膵癌	1	1			2
腸酸酵	1	1	2		4	外傷性膵損傷			1		1
直腸ポリープ		1			1						
直腸癌				1	1	計	320	208	446	252	1,226
寄生虫疾患											
十二指腸虫症		2	3	4	9	條虫症			1		1
蛔虫症	2		2		4						
蟯虫症	1		1	1	3	計	3	2	7	5	17

4. 消化器疾患

I 胃潰瘍と十二指腸潰瘍

イ 胃潰瘍と十二指腸潰瘍の発生頻度 胃潰瘍

町地区 男21例 発生率3.6%

農村地区男16例 発生率4.0%

町地区 女18例 発生率2.4%

農村地区女 5例 発生率1.1%

十二指腸潰瘍

町地区 男18例 発生率3.1%

農村地区男 8例 発生率2.0%

町地区 女12例 発生率1.6%

農村地区女 7例 発生率1.7%

胃潰瘍では最も高率を示したのは、農村男4.0%で、町地区男 3.6%、女では何れも男より低率であるが、町地区女の発生率は農村地区女の2倍以上を示した。

十二指腸潰瘍は町地区男 3.1%が最も高率で農村地区男 2.0%がこれに次ぐ。女では町、農村共に大差なく、男より低率であった。

考 察

近來農村の食生活が大幅に改善され、米の大食や大酒の悪習が、次第に是正され、胃潰瘍の発生率は減少し、町、農村共に有意の格差は認められなかった。

尚、女子では町、農村共に、男より低率であったが、町地区女の発生率が、農村に比し高率を示したのは、胃炎、胃下垂、胃アトニーの発生率が町地区女に最も高率を示している事と、重要な関連性を持つものと思われる。

原因として第一に農村女は肉体労働が多いが、町地区女は静坐位が多く運動量が少ない事、筋肉の發育が比較的虚弱である事から胃の消化運動の弱いこととの関連が考えられる。第二に美食や過食間食等の食事の不規則が町地区女で多いのではないか、と思われる。以上の事から所謂胃弱の多い事が、潰瘍発生の素地と相俟って、一要因を成すものと思われる。

ロ 年令と胃十二指腸潰瘍の発生頻度 表(5)

年令	疾患		十二指腸潰瘍	
	胃潰瘍 男	胃潰瘍 女	男	女
20才代	4	3	11	7
30才代	5	7	8	8
40才代	7	6	3	3
50才代	8	5	4	1
60才代	11	1	0	0
70才代	2	1	0	0
計	37	23	26	19

1) 男の胃潰瘍では、60才代が最も多く、次いで50才代で、40才代以下の若年層では比較的

少ない。女では30才代、40才代、50才代が比較的多くみられる。

十二指腸潰瘍では、若年層20才代、30才代が最も多く、これは男女共に同様であった。即ち高年層では胃潰瘍、青年層では十二指腸潰瘍が多くみられる傾向が認められた。

II 胃 癌

町 地区 男4例 発生率0.7%

農村地区 男3例 発生率0.7%

町 地区 女1例 発生率0.13%

農村地区 女1例 発生率0.2%

イ 町農村地区共に、男に発生率高く、両者同率であった。女では農村地区が僅かに高率だが有意の差は認められない。

ロ 年令別発生頻度

年令	性別		計
	男 例	女 例	
50才代	2	0	2
60才代	5	1	6
70才代	0	0	0
80才代	0	1	1
計	7	2	9

男では60才代に最も高率に発生を認められ、この年代が最も癌年令として注目に値する。女では50才以下には認められず60才以上にみられた。

III 肝疾患

イ 急性肝炎

1) 町地区 9例、農村地区4例、男女別では、男7例、女6例で地区別では町地区に農村地区の約2倍の発生が認められたが、男女別では略同数であった。

発生地調査では、何れも散発性で、同地区の集中発生は認められない。原因として肝炎ウイルスが考えられるが、該ウイルスの浸淫地域は認められない。

2) 血清肝炎は 男3例、女1例、計4例であった。

細胆管性肝炎は 女に1例であった。

ロ 慢性肝炎及び肝障害

慢性肝炎

町 地区 男21例 発生率3.6%

農村地区 男6例 発生率1.5%

町 地区 女11例 発生率1.4%

農村地区 女8例 発生率1.0%

- 1) 慢性肝炎は、男女共に町地区に高率で、男3.6%が最も高い。町地区女1.4%、農村地区男1.5%が略同率で、農村地区女が最も低率であった。急性肝炎が町地区に多いのと同様の傾向が見ら

れた。

- 2) 慢性肝炎には、急性肝炎より慢性に移行したものと、始めより慢性型として発病せるものがあり、特に後者は遷延した経過をとるものが多い。
- 3) 発生地調査では、大体単発の発生が大部分であるが、滑川市常盤町、上小泉各4例四間町、中町 各2例の同地区発生がやや注目される。

神 經 系 疾 患

病 名	男		女		計	病 名	男		女		計
	町地区	農村地区	町地区	農村地区			町地区	農村地区	町地区	農村地区	
神 經 炎	2	1	2	2	7	チ ッ ク	1				1
顔 面 神 經 麻 痺	2		3	1	6	周 期 性 四 肢 麻 痺	1		2		3
動 眼 神 經 麻 痺	1		1		2	メニエル氏症候群		7	8	13	28
眼 調 節 麻 痺				1	1	自 律 神 經 失 調 症	5	4	10	6	25
顔 面 筋 痙 攣			1		1	不 定 愁 訴 症 候 群			5	2	7
帯 状 疱 疹	1		2	1	4	脚 気 様 症 候 群	2	9	16	5	32
三 叉 神 經 痛			1		1	肢 端 紅 痛 症			1		1
後 頭 神 經 痛	1	3	2	3	9	レ イ ノ ー 氏 病			1		1
上 膊 神 經 痛		4	8	4	16	緊 張 性 頭 痛	5	3	9	5	22
肋 間 神 經 痛	7	5	12	3	27	筋 収 縮 性 頭 痛	1	1			2
腰 部 神 經 痛	3	5	5	5	18	片 頭 痛	1		3	1	5
坐 骨 神 經 痛	1	2	5	3	11	神 經 性 耳 鳴	3	1	1	2	7
足 部 神 經 痛	1			1	2	め ま い	1			1	2
脳 卒 中	7		4	2	13	咽 喉 神 經 症		2	2	4	8
脳 溢 血	1	1	1	1	4	神 經 症	4	3	6	2	15
脳 軟 化 (血 栓、塞 栓)	8	6	2	4	20	無 臭 症			1		1
くも 膜 下 出 血	3		1		4	神 經 梅 毒	1				1
一 過 性 脳 虚 血 発 作		1			1	て ん か ん	3				3
脳 卒 中 後 遺 症	7	6	1	1	15	う つ 病	1	1	6	5	13
脳 動 脈 硬 化 症	14	11	12	7	44	心 身 症	1			1	2
球 麻 痺	1				1	反 応 性 精 神 症	1				1
脳 腫 瘍		1			1	精 神 シ ョ ッ ク				1	1
ビ ー ル ス 性 髄 膜炎		1			1	不 眠	1		3	1	5
パ ー キ ン ソ ン 氏 症 候 群	1				1						
振 顫 麻 痺			1		1	計	93	78	138	88	397

6. 神経系疾患

I 脳卒中

広義の脳卒中は脳溢血、脳軟化（脳血栓、脳塞栓）、くも膜下出血、一過性脳虚血発作、高血圧脳症を総称するものであるが、脳卒中の欄は臨床的に溢血か、軟化かの鑑別が困難な症例の際に、これを脳卒中と診断したもので、随って脳溢血、脳軟化を脳卒中に一括し、狭義の脳卒中として統計的観察を行なった。

II 脳卒中の発生頻度

町地区 男16例 発生率2.8%

農村地区男 7例 発生率1.78%

町地区 女 7例 発生率0.94%

農村地区女 7例 発生率1.5%

1) 発生率からみて、町地区男、農村地区男、農村地区女の順位で、町地区女が最も低率であっ

た。

2) 農村地区男は町地区男に比して、幾分低率に出ているが脳卒中の性質からみて、遠隔の地域は、地方医により在宅治療を行なう場合が多い事から考えて、実情は本統計よりも高率の発生率であると思われる。

3) 町、農村地区を通じて、男が女よりも高率であるのは、生活環境、気候風土の影響も無視は出来ないが、特に男の職業の性質が女よりも、肉体的、精神的負担の過重な事が、その発生により重大な影響と誘因をもつものと思われる。

4) 農村女の発生率が町地区女に比して高率を示すのは、生活環境と仕事の性質より当然事とはいえず、最近の兼業農家の増加による農村主婦の過重労働が大きな誘因となっている事は間違い無い事である。

泌 尿 器 疾 患

病 名	男		女		計	病 名	男		女		計
	町地区	農村地区	町地区	農村地区			町地区	農村地区	町地区	農村地区	
糸球体腎炎	4	8	15	11	38	腎 結 核	1		2		3
ネフローゼ			1	2	3	腎 盂 炎			7	9	16
糖尿病性腎症			2		2	膀 胱 炎	5	2	12	9	28
蛋 白 尿		2	1		3	前 立 腺 症	4				4
腎 障 害	8	1	7	2	18	副 睪 丸 炎	1				1
腎 不 全			3		3	神 経 因 性 膀 胱	3		1		4
尿 毒 症			2		2	尿 路 結 石 (腎、尿管膀胱)	8		2	1	11
起立性蛋白尿			1	1	2	重 複 腎 盂	1				1
遊走腎、腎下垂			1	1	2						
水 腫 腎	1				1	計	36	13	57	36	142

血 液 疾 患

貧 血	5	7	28	26	66	白 血 病	1				1
再生不良性貧血	2	1			3	顆粒白血球消失症			1	1	1
単純性紫斑病			1	2	3	細 網 肉 腫					1
血管性紫斑病			1		1						
血小板減少性紫斑病	3		1		4	計	11	8	32	29	80

新陳代謝患疾

病名	男		女		計
	町地区	農村地区	町地区	農村地区	
糖尿病	26	11	30	11	78
糖尿病性神経炎			1		1
糖尿病性網膜症			1		1
糖尿	12	6	5	4	27
ステロイド糖尿		1			1
痛風	1				1
肥腫症			1	1	2
計	39	18	38	16	111

町地区 男 5例 発生率0.37%

農村地区男 7例 発生率1.7%

町地区 女28例 発生率3.7%

農村地区女26例 発生率5.7%

1) 貧血は、町農村共に女に多く、特に農村に高率であった。農村男の3倍以上の頻度であった。兼業農家主婦の過重労働と多忙による粗食が原因である事は、既に知られて居り、農村中年主婦に特に注意せらるべき事である。

2) 町地区でも女は男の4倍の頻度を示していたこれ等の原因とし妊娠、出産、生理等の外に、慢性胃疾患の多い事も一因と思われる。即ち、食生活、生活環境にその原因を探求せらるべき問題が潜在していると思われる。

3) 町地区男は極めて少ない。

7. 血液疾患

I 貧血

内 分 泌 疾 患

病名	男		女		計	病名	男		女		計
	町地区	農村地区	町地区	農村地区			町地区	農村地区	町地区	農村地区	
甲状腺腫			1	3	4	アデソン氏病			1	1	2
甲状腺機能亢進症			1	1	2	更年期障害			9	7	16
甲状腺機能低下症			2		2	卵巣欠落症状			2	2	4
甲状腺腫瘍			1		1						
テタニ				1	1	計			17	15	32

伝 染 病 疾 患

細菌性赤痢	2	4	6	5	17	麻疹			1		1
食中毒	2	1			3	計	4	5	7	5	21

皮 膚 疾 患

中毒疹	5	4	9	7	25	湿疹	3	3	2	3	11
接触性皮膚炎		2	3	5	10	搔刺症		1			1
じんましん	5		4	1	10	結節性紅斑		1		1	2
痒疹		1			1						
搔痒症	1	2	2	4	9	計	14	14	20	21	69

中 毒

中毒	3	2	3	1	9						
睡眠薬中毒	1			2	3	計	4	2	3	3	12

淋 巴 系 疾 患

病 名	男		女		計	病 名	男		女		計
	町地区	農村地区	町地区	農村地区			町地区	農村地区	町地区	農村地区	
淋 巴 腺 炎	1	1	3	5	10	頸 部 腫 瘍			1		1
淋 巴 腺 結 核			1		1	計	1	1	5	5	12
運 動 器 疾 患											
関 節 リ ウ マ チ	3	7	6	13	29	背 椎 分 離 症			2		2
関 節 炎	1	3	4	3	11	骨 粗 鬆 症				1	1
筋肉痛、筋筋膜症 ※ (所謂腰痛症を含む)	31 (10)	17 (5)	24 (6)	20 (9)	92	背 椎 過 敏 症		1	1	1	3
肩 胛 関 節 周 囲 炎	4	1	2	8	15	頸 肩 腕 症 候 群	4	3	4	3	14
打 撲 症	2		2	4	8	蜂 窩 織 炎	1	1			2
骨 折	1	1	1		3	頭 部 外 傷 後 遺 症	1				1
変 形 性 背 椎 症	6	1	2	1	10						
変 形 性 膝 関 節 症			1		1	計	54	35	49	54	192
※ () 内は所謂腰痛症											
そ の 他											
そ の 他	15	9	24	13	61						
ス モ ン 病			3		3	計	15	9	27	13	64

死亡患者の疾患別及び頻度

疾患名	性別		計
	男	女	
脳 卒 中	2	7	9
くも膜下出血	1	1	2
胃 癌	2		2
肺 癌	3		3
膵 癌	1		1
肺 結 核	3	2	5
肝 性 昏 睡	2		2
糖尿病性昏睡		1	1
閉塞性黄疸	1		1
心筋硬塞	1	2	3
急性膵炎		1	1
尿 毒 症		2	2
計	16	16	32

総 括

1) 脳血管障害
最も多く、脳
卒中9名、くも
膜下出血が2
例、次に肺結
核5例で老人
難治型であっ
た。

2) 悪性腫瘍で
は胃癌2例、肺
癌3例、膵癌1
例、何れも男
で肺癌が胃癌
より多かった。

1) 昭和46年農協滑川病院内科受診患者の総実人数は、2,159名で 男963名、女1,196名で、女が多い。町農村地区別では、町地区1,315名で、農村地区844名で、両地区共に女が多い。

2) 滑川市町地区住民16,257名に対する受診率は5.8%、滑川農村地区住民は、13,970名で、受診率は4.3%。農村地区字別の調査では、東加積東金屋の受診率最高で、15.5%、次いで浜加積大島新14.9%であった。農協別では、山加積7.0%、浜加積6%の受診率が高率であった。

3) 疾患別による統計調査では最も発生頻度の高きは、消化器系1,226例で29%、次いで呼吸器系1,157例で27.4%、循環器系695例で16.4%この三系の合計72.8%を占めている。

4) 気管支喘息の発生率は男女共に、町地区に著明な高率を示し、町地区 男3.1%で、農村地区 男1.5%の約2倍を示し、町地区女1%に対し、農村地区女0.66%で同様町地区に高率であった。

- 3) 心筋硬塞3例で 女2例、男1例。
- 4) 肝性昏睡及び尿毒症は各々2例、前者は男、後者は女であった。糖尿病性昏睡 女1例。
- 5) 死亡者数男16名、女16名、同数であった。

即ち近來の町地区周辺の工場地帯の増設拡大が、空気汚染度を急速に高め、喘息発生の原因となっている事は明かである。

- 5) 肺癌は町地区男4名、農村地区1名の発生を見町地区の発生率が高い。興味ある事は、男5名の発生に対し、女に1名もみられなかった事である。この事実は町地区の工場、自動車の増加により、煤煙やガソリンの排気で空気汚染が急速な高まりを示している事や、女性に有意に少ない事は喫煙が関連している事を明示しているものである。
- 6) 肺結核は減少して来たとはいいい乍ら尚91名に認められ、老人結核が多く空洞形成や結核菌陽性のものも少なくなく、且つ抗結核剤に耐性を示している事に留意するべきである。
- 7) 心筋梗塞は最も致命率の高い疾患であるが、町地区男が最も発生率が高い。女は比較的少ない。年令的には60才代に最も頻度が高く、次いで50才代である。生活のストレスが男に大きい事が、心筋梗塞の発生率に表われている。狭心症も同様の傾向が見られ、町地区が男女共に高く、特に男に高い。
- 8) 冠不全は農村地区女に最も高率にみられ、原因として、冠硬化、貧血、過重労働が考えられるが、最近農村主婦の兼業農家に於ける過重労働は、既に指摘されている事実で、それと関連する農村中年主婦の貧血の増加は同様に要因をなしているものに違いない。
- 9) 高血圧は町農村共に男女を通して大差なかった。
- 10) 胃潰瘍の最も多いのは、農村地区男で4.0%の発生率を示した。十二指腸潰瘍は町地区男が多く、3.1%で、女は何れも男より少ない。年令別にみると胃潰瘍は男では60才代に最も多く次いで50才代で若年層に少ないが、十二指腸潰瘍は反対に若年層に多くみられる傾向がある。
- 11) 消化器疾患で最も高率を示すのは、所謂、胃炎で、米食偏重の習慣を改善する必要がある。胃炎は町、農村男女共に多いが特に農村地区男18%、町地区女15.4%が高率である。
- 12) 胃癌は町、農村共に男に発生率が高い。年令的に男では60才代が最も頻度が多く、この年代

が癌年令として注目されねばならぬ。女では50才代以下は認めなかった。

- 13) 急性肝炎は町地区9例、農村地区4例で、町地区が農村地区の2倍の発生率を示す。男女別では略同率であった。慢性肝炎は男女共に、町地区に高率であったのは、急性肝炎と同様であった。肝癌は3例に認めた。肝硬変4例で男2名共にアルコール中毒者でアルコール性肝硬変であった。
- 14) 脳卒中は、町地区男が最も高率を示していたが脳卒中の性質からみて、遠隔地区は地方医師による自宅治療を行なう事の多い事からして、農村地区の発生率は実際はもっと多いものと思われる。町、農村を通じて男の方が女より多い町、農村地区女を比較すると農村に多い。これは兼業農家主婦の過重労働が重大な関連性を持っているに違いない。
- 15) 神経痛は町地区男では肋間神経痛多く、農村地区男では、腰部神経痛と肋間神経痛多く、女では町は肋間神経痛多く、農村では腰部神経痛が多い。
- 16) 腎炎は町、農村を通じて女に多く、特に農村に多い。寒冷な戸外作業の性質上、溶連菌の感染をうけ易い事や、尿路感染をうけ易い事等が関連している。
腎盂炎、膀胱炎についても同様の事が云える。
- 17) 貧血は町、農村共に女に多い。特に農村女に高率で5.7%で男の3倍以上の頻度である。過重労働や粗食が原因と成っている。町地区でも女は男の4倍の頻度3.7%で妊娠、出産、生理の外に慢性胃疾患が女に多い事も一因と思われる。
- 18) 糖尿病は男女共に町地区に多い。美食と運動の少ない生活、肥満が誘因と成っている。
- 19) 関節リウマチは男女共に農村に多い。殊に農村女は町地区女の3倍以上で農村地区男に比べても、はるかに高率であった。
弱い体格の女に対する寒冷な気候風土と過重労働が一因と成っている。
- 20) 死亡者疾患の頻度では、脳血管障害即ち、脳卒中が最も多く、次が肺結核で、心筋梗塞、肺癌、胃癌がそれに次ぐ。